

【国富町】 校務DX計画

文部科学省が令和5年11月に実施した「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリストの自己点検結果」によると、学校では、県内統一の統合型校務支援システムの利活用により、各種のデータ処理や学校・教職員間でのデータの共有について効率的な運用が図られている。一方、学校・保護者間では欠席の連絡や学校発信の配布物などについてクラウドサービスの利活用に課題が見られる。また、教育委員会と学校間では、GIGA環境を生かした研修のオンライン化・オンデマンド化など一定の成果は見られるものの、各種業務の処理や手続きについては、クラウドサービス等の利活用が不十分である。そこで、以下の1～3を重点取組とし、校務DXを一層推進する。

1. GIGA環境・クラウドサービスの一層の利活用

学校と保護者間において、欠席連絡や学校配信の配布物についてクラウドサービスの積極的な利活用を図る。また、アンケート等を実施する場合にも汎用クラウドツールを活用し、学校・家庭双方の負担軽減に努めていく。

2. 各種業務の処理や手続きの見直し

教育委員会と学校間でのFAX使用は原則禁止とし、統合型校務支援システムやクラウドサービスを利活用して、業務連絡、文書のやり取り等を進めいく。また、学校管理運営規則を見直し、統合型校務支援システムや汎用クラウドツールの活用の幅を広げ、業務の簡略化・効率化を図る。

3. 校務における生成AIの活用推進

国の実証研究の成果等をもとに、生成AIの校務への活用可能性を探るとともに、実践できるものについては、迅速に学校への情報提供を行い、業務負担の軽減に努めていく。

4. 今後の計画目標

- 令和5年度中に全教職員、児童生徒にID付与した汎用クラウドツールの積極的活用（令和6年度～）
- 各種業務の処理や手続きの見直しに向けての問題点の洗い出し、学校管理運営規則の改正（令和7年度～）
- 校務における生成AIの活用についての情報収集、学校への情報提供、研修の実施（令和7年度～）